

# 石見銀山登録決定

## ユネスコ世界遺産委

# 延期からの2段階昇格

## 価値証明で評価覆す



石見銀山遺跡の世界遺産登録が審議されたユネスコ世界遺産委員会の会場＝ニュージーランド・クライストチャーチ

山陰中央新報

発行所  
山陰中央新報社  
松江市殿町383 山陰中央ビル6階  
郵便番号 690-8668  
電話 総合案内 0852(32)3440  
©山陰中央新報社2007

号外

山陰中央新報の購読申し込みは  
0120-49-2550  
受付時間 9:00-17:00 (日曜祝日除く)

県民の願い通じた  
溝口善兵衛・島根県知事の話  
世界遺産の登録は県民の願いが通じたもので、大変な喜びだ。

国、島根県、大田市、近藤誠一  
ユネスコ日本代表部特命全権大使が一体となって活動した成果。県民にとってこの上なく明るいニュースだ。

【ニュージーランド・クライストチャーチ28日】引野道生】大田市の石見銀山遺跡の世界遺産登録について、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の第三十一回世界遺産委員会は二十八日、当地で審査し、「登録」を決議した。日本側の反転攻勢が奏功し、諮問機関の国際記念物遺跡会議（イコモス）が示した登録延期勧告から二段階格上げという快挙を達成した。

「登録」は世界遺産にふさわしい普遍的な価値を認める内容。「石見銀山遺跡とその文化的景観」の名称で、七月二日の委員会終了後、世界文化遺産に登録される。日本では十四カ所目、アジアの産業遺産では初の世界遺産になる。

世界遺産委員会の新規登録をめぐる審議は、クライストチャーチコンベンションセンターを会場に非公開で開催。二十七日から二日間にわたって石見銀山遺跡を含む三十六件の遺産登録の可否が審査された。

審議ではイコモスが延期勧告の理由を説明。これに対し、発言を許された近藤誠一ユネスコ日本代表部特命全権大使が「最低限の発掘調査で価値は十分に証明できている」と反論。採決では、構成国代表の全会一致により「登録」で理解を得た。

石見銀山遺跡について、文化庁と島根県、大田市は、一九九六年からの総合調査の成果に基づき、世界遺産としての普遍的な価値を構築。政府が昨年一月、ユネスコに推薦書を提出した。

イコモスは現地調査で百項目を超す異例の質問や指摘を実施。五月に提出した評価報告書では五つの問題点を指摘し、価値証明が不十分とする登録延期を勧告。最終的に登録の可否を判断する世界遺産委員会の動向が注目されていた。